



平成 2 9 年 度

機 構 及 び 事 務 分 掌

平成 29 年 5 月 17 日

文化観光局

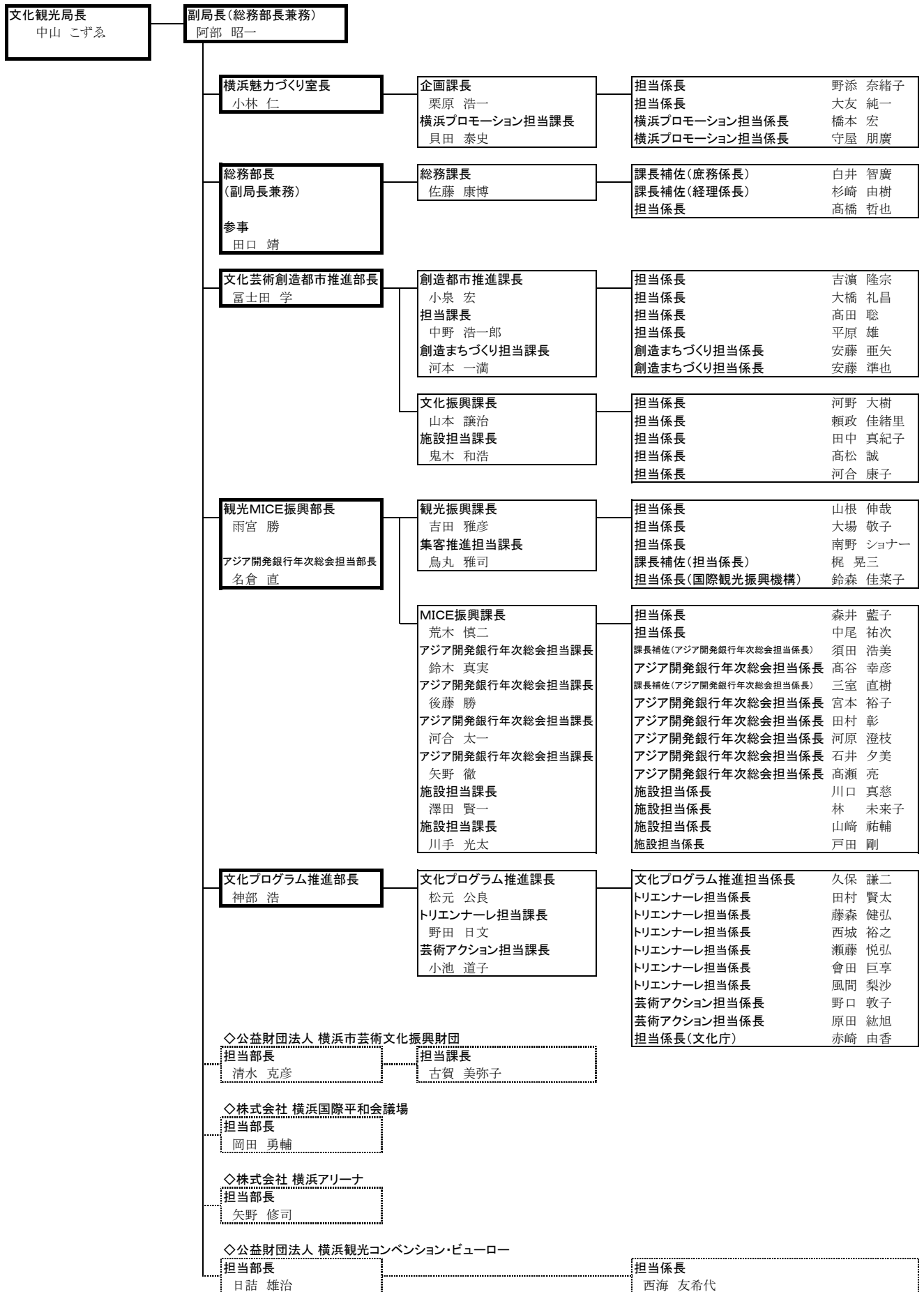
あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

目 次

1	機構図	
	文化観光局	・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
2	事務分掌	
	文化観光局	・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

1 機構図



(注) 表中、点線で囲まれた部分は外郭団体等への派遣職員を示します。

2 文化観光局事務分掌

横浜魅力づくり室

企画課

- 1 横浜の魅力向上に係る総合的な企画、調整及び調査研究に関すること。
- 2 局の重要施策の企画及び総合調整に関すること。
- 3 シティプロモーションに関すること。

総務部

総務課

- 1 局内の人事、文書、予算及び決算に関すること。
- 2 局内の事務事業の連絡調整に関すること。
- 3 局所管の外郭団体の総合調整に関すること。
- 4 局の危機管理に関すること。
- 5 他の室及び部の主管に属しないこと。

文化芸術創造都市推進部

創造都市推進課

- 1 創造都市の形成に係る総合的な企画、調整及び事業等の実施に関すること。
- 2 創造都市の形成に係る拠点の整備及び運営管理並びにこれらに係る企画、調査及び調整に関すること。
- 3 創造都市の形成に係るまちづくりに関すること。
- 4 部内他の課の主管に属しないこと。

文化振興課

- 1 文化施策の総合的な企画及び事業の実施に関すること。
- 2 文化芸術活動の総合的な支援に関すること。
- 3 文化施設の整備及び運営管理並びにこれらに係る企画、調査及び調整に関すること。
- 4 区役所の文化振興支援に関すること。
- 5 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団に関すること。
- 6 文化基金に関すること。
- 7 その他文化振興に関すること。

観光M I C E振興部

観光振興課

- 1 観光交流の推進及び調整に関すること。
- 2 観光関係の団体及び施設に関すること。
- 3 国内外からの観光客の集客に係る総合的な企画、調整及び事業の実施に関すること。
- 4 公益財団法人三溪園保勝会及び公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューローに関すること。
- 5 部内他の課の主管に属しないこと。

M I C E振興課

- 1 大型国際コンベンションその他のM I C Eの誘致及び開催支援に関すること。
- 2 大規模集客イベントの支援に関すること。
- 3 M I C E関係の団体及び施設に関すること。
- 4 株式会社横浜国際平和会議場及び株式会社横浜アリーナに関すること。

文化プログラム推進部

文化プログラム推進課

- 1 横浜トリエンナーレその他の文化プログラムに係る総合的な企画、調整及び事業等の実施に関すること。



平成 2 9 年度

事 業 概 要

文化観光局

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

目 次

	ページ
I 平成29年度文化観光局運営方針について	3
○基本目標	
○目標達成に向けた施策	
II 平成29年度文化観光局予算について	5
○予算額の概要	
○予算編成の考え方	
◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆	6
III 平成29年度文化観光局主要事業	7
1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化	7
(1) シティプロモーション事業	
(2) 調査分析事業	
2 横浜の未来を担う次世代育成の推進～クリエイティブ・チルドレン～	8
(1) 芸術文化教育プログラム推進事業	
(2) クラシック・ヨコハマ推進事業	
(3) ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン推進事業	
(4) 映像文化都市次世代育成事業	
(5) アーツコミッション次世代育成事業	
(6) M I C E次世代育成事業	
◆トピックス② クリエイティブ・チルドレンの主な取組	10
3 市民の文化芸術活動の支援	11
(1) 地域文化サポート事業	
(2) 芸術文化支援事業	
(3) 関内ホール改修事業	
(4) 文化施設整備事業	
(5) 文化施設運営事業	
◆トピックス③ 市民活動への支援 -28年度の取組(横浜音祭り2016)から-	12
4 横浜らしい先進的な文化芸術・創造都市の国内外への発信	13
(1) 横浜トリエンナーレ事業	
(2) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業	
(3) 日中韓都市間交流事業	
(4) スマートイルミネーション事業	
(5) 創造的ビジネス・コーディネート事業	
(6) アーツコミッション事業	
(7) 創造界限形成事業	

◆トピックス④ 創造界隈の新たな展開◆	16
◆トピックス⑤ クリエイティブ・インクルージョン◆	17
5 MICE誘致・開催支援、集客増に向けた観光施策の充実	18
(1) 20街区MICE施設整備事業	
(2) アジア開発銀行年次総会横浜開催推進事業	
(3) MICE誘致・開催支援事業	
(4) 国内誘客事業	
(5) 海外誘客事業	
(6) 多文化に対応した受入・誘客事業及び多言語対応強化事業	
(7) 三溪園施設整備等支援事業	
◆トピックス⑥ 広域連携による海外誘客の推進◆	22
◆トピックス⑦ 国際的なMICE拠点都市・横浜◆	22
◆トピックス⑧ ラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック・ パラリンピックを契機とした取組の強化◆	23
IV 平成29年度文化観光局予算総括表	25
V 予算科目別内訳	27
1 文化観光総務費	27
2 文化芸術創造都市推進費	28
3 文化プログラム推進費	31
4 観光MICE振興費	32

I 平成 29 年度 文化観光局 運営方針について

基本目標

あうたびに、あたらしい *Find Your YOKOHAMA*
～「チーム文化観光局」による「選ばれる都市 横浜」の実現～

目標達成に向けた施策

1. 「中期 4 か年計画 2014～2017」総仕上げの年

文化観光局は、これまで「文化のかおる活力ある都市横浜、人が集い交流する賑わいのある都市横浜」の実現に向けて、データに基づいたPDC Aサイクルをしっかりとまわし、事業の相乗効果を発揮しながら様々な取組を展開してきました。

29 年度は、「中期 4 か年計画」の総仕上げとして、目標の達成に向けて、各施策を着実に進めます。第 50 回アジア開発銀行（ADB）年次総会の成功により、グローバル MICE 都市としてのプレゼンスを一層高めるとともに、さらなる発展を期して 20 街区 MICE 施設の本体工事に着手します。また、「ヨコハマトリエンナーレ 2017」、「ヨコハマ・パタトリエンナーレ 2017」の開催等により、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードします。ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、“クリエイティブ・チルドレン”・“クリエイティブ・インクルージョン”の視点を入れた事業も実施します。

横浜の持つ開放的・先駆的・創造的な要素をふまえたブランドスローガンのもと、「選ばれる都市 横浜」の実現に向けて、局一丸となって取り組みます。

【ブランドスローガン】

歴史あるものを大切に守りつつ、いつも新しい発見があり、感性が磨かれる感覚と、ワクワクする心の高揚が感じられる街、横浜。そんな横浜のブランドイメージを高めていくためのスローガンです。

<日本語>

<英語>

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

Inspire Your Soul

Find Your YOKOHAMA

【ブランドエッセンス】

横浜に来ると（住んでいると）味わえる体験や感覚の核となる要素。

こうした要素を提供できる施策を展開し、都市ブランドイメージを高めていきます。

新しい発見

磨かれる感性

ワクワクする高揚感

2. 施策を推進する5つの柱

横浜が市民の皆様にとって誇れるまち、国内・海外からも「選ばれる都市」として、持続的に発展し、都市の活性化を図るために、市民の皆様をはじめ、地域、事業者、団体、NPOなど様々な皆様と連携し、施策を展開します。そのために、29年度は5つの柱を立て施策を推進します。

1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

2 横浜の未来を担う次世代育成の推進 ~クリエイティブ・チルドレン~

3 市民の文化芸術活動の支援

4 横浜らしい先進的な文化芸術創造都市の国内外への発信

5 MICE 誘致・開催支援、集客増に向けた観光施策の充実

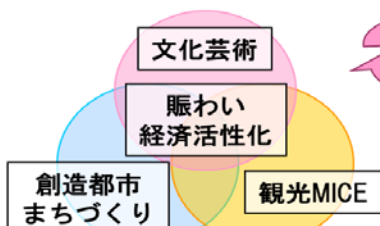
目標達成に向けた組織運営

データと PDCA サイクルによる確かな業務執行を基盤とし、3つのアップの連動によって、さらなる賑わいと経済活性化につなげます。

文化観光局は3つのアップ！

プロモーションカアップ！

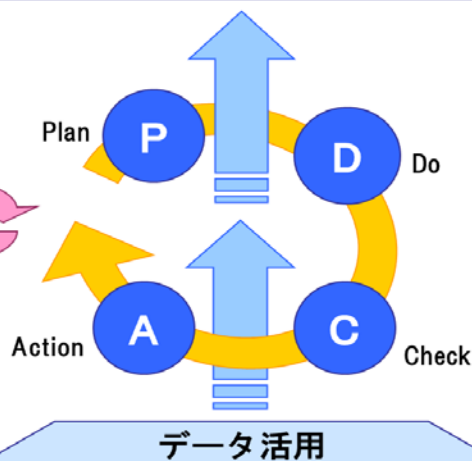
横浜の魅力アップ！



マーケティングカアップ！

データとPDCAによる
確かな業務執行

事業のさらなる発展



○文化観光局「人財」育成ビジョンにもとづいた「目指す職員の育成」

- ・現場主義、顧客志向、地域や企業との協働により、横浜の魅力づくりに取り組める職員
- ・費用対効果の意識が高く、説明責任が果たせる職員
- ・法令・ルールへの遵守、情報管理を徹底し、公平性の意識が高い職員
- ・職員同士お互いを尊重し、生き生きかつ楽しく仕事をし、組織の枠を超えて連携できる職員

Ⅱ 平成 29 年度 文化観光局 予算について

予算額の概要

29 年度の文化観光局の一般会計予算額は、73 億 1,977 万円、対前年度 1 億 9,766 万円の減、2.6%の減となっています。

主な減額理由は、旧関東財務局保全・耐震対策事業の終了によるものです。

区 分	29 年度予算額	28 年度予算額	増 減
一般会計	73 億 1,977 万円	75 億 1,743 万円	△1 億 9,766 万円 (△2.6%)

(内訳は 25 ページの文化観光局予算総括表を御覧ください。)

予算編成の考え方

1. 「選ばれる都市 横浜」に向けて

28 年度は、「横浜音祭り 2016」の開催、29 年 5 月の「第 50 回アジア開発銀行 (ADB) 年次総会」開催に向けた準備や新たな MICE 施設の運営事業者の決定、クリエイティブ・チルドレンの推進や旧関東財務局における新たな事業者による施設 (THE BAYS) オープンなど、文化芸術創造都市、観光・MICE の各取組を進めました。また、観光集客実人員は 3,614 万人、観光消費額は 3,195 億円となり、観光消費額は過去最高を更新しています¹。

29 年度は、「中期 4 か年計画」の最終年度、仕上げの年です。掲げた目標の達成に向けて、各施策を着実に進めます。また、ラグビーワールドカップ 2019TM、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見据え、文化芸術創造都市、観光・MICE の各施策を“クリエイティブ・チルドレン”・“クリエイティブ・インクルージョン”の視点を入れて展開します。横浜ならではの文化プログラムの展開、MICE 誘致・開催支援や国内外からの集客を通じて、都市の賑わいと活力を生み出すとともに、「選ばれる都市 横浜」の実現に向けて、局一丸となって取り組みます。

2. 施策を推進する 5 つの柱に基づく予算編成

施策の推進にあたっては、「中期 4 か年計画」や「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」を基軸として、文化芸術創造都市施策の展開、国内外からの誘客促進や市内経済の活性化につながる観光・MICE 施策など、それぞれの取り組みを着実かつ積極的に進めていきます。そのために、29 年度は、運営方針に掲げる 5 つの柱に沿った予算を編成しました。

¹ 29 年 4 月 28 日発表の「28 年 (1～12 月) 観光集客実人員及び観光消費額」

◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆

「横浜市中期4か年計画 2014～2017」では、都市間競争が激化する中で、人や企業から選ばれる都市となるよう、文化芸術創造都市や観光・MICEの振興、街の魅力や賑わいづくりにつながる観光誘客の促進を図っています。各指標の目標値と取組状況（27年度）は次のとおりです。

指 標	策定時	27年度	目標値(29年度末)
施策23 観光・MICEの推進			
国際会議開催件数 (UIA※1基準)	51件(25年)	39件(26年)	75件/年
外国人延べ宿泊者数	44万人(25年)	72万人(27年)	60万人/年
観光消費額	2,334億円(25年)	3,188億円(27年)	2,475億円
施策24 文化芸術創造都市による魅力・活力の創出			
横浜美術館及び横浜みなとみらい ホールの首都圏からの来訪率※2(本 市を除く県内及び東京都、埼玉県、千葉県 の平均値)	横浜美術館 14.9% (25年度) MMホール 15.6% (25年度)	横浜美術館 14.5% (27年度) MMホール 16.5% (27年度)	横浜美術館 17% MMホール 17%
芸術文化教育プログラム推進事業 学校プログラム実施回数	205回(25年度)	338回(27年度)	280回
創造限界拠点(4拠点)※3の市内 認知率	40.1%(25年度)	40.2%(27年度)	50%

※1 UIA: Union of International Associations(国際団体連合)

※2 本市調査で「これまでに施設を訪れたことがある」と回答した方の割合

※3 創造限界拠点(4拠点): YCC ヨコハマ創造都市センター、Bank ART Studio NYK、象の鼻テラス、黄金スタジオ・日ノ出スタジオ

Ⅲ 平成 29 年度 文化観光局 主要事業

1

戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

横浜のブランド力向上や集客・賑わいづくりにつなげていくため、基礎的情報の収集・分析を踏まえ、文化芸術創造都市、観光・MICEを中心に横浜の魅力を総合的に発信するシティプロモーションを戦略的・効果的に展開します。

(1) シティプロモーション事業

8,782 万円（前年度：8,062 万円）

拡充

p. 27

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい～Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的にプロモーションすべきイベント・施設を選定したうえで、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。

29 年度は、ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見据え、テレビや SNS による映像を活用したプロモーションを強化することで、都市の魅力の認知度やブランドイメージを向上させるほか、新たに英国・オーストラリア等を対象としたプロモーションを行います。

さらに、プロモーションノウハウの蓄積・共有化を進めるとともに、庁内各部署からの事業プロモーションに対する相談対応を行うことで、市全体のプロモーション力アップと一貫性のあるプロモーションを進めます。



【公式Instagramアカウント
@findyouryokohama】



【Catch Asia! Media Network】

(2) 調査分析事業

1,421 万円（前年度：1,083 万円）

拡充

p. 27

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等を把握することにより、施策立案の基礎資料として活用します。あわせて、ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックという絶好の機会をとらえた、賑わい形成、経済の活性化、プロモーションの戦略的・効果的な実施につなげるため、英国・オーストラリア等を対象にした調査を実施します。

横浜の未来を担う子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域において、文化芸術や国際交流などに親しむ機会の充実や才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進します。

鑑賞、体験、社会活動などライフステージに応じた次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）を幅広く展開し、文化芸術創造都市、観光・MICE都市として、ブランドの確立につなげます。

(1) 芸術文化教育プログラム推進事業

拡充

3,494万円（前年度:3,394万円）

p. 29

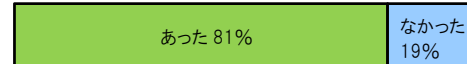
芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを29年度は、261回（28予算261回）実施します。

NPO団体や市内文化施設等が、教師とアーティストのコーディネートを担当することで効果的にプログラムを提供します。また、プログラムの質を高めるため、コーディネーターが相互にノウハウを交換しあう会議や教師のためのワークショップを開催し、本事業を支える人材を育成します。29年度は、校外で公演を鑑賞する機会を新たに提供します。

27年度実施校アンケートから

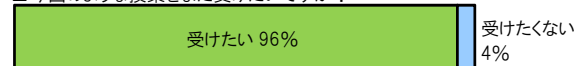
児童・生徒向けアンケート

■自分から楽しんだり、発見したりしたことはありましたか？



児童・生徒向けアンケート

■今回のような授業をまた受けてほしいですか？



教員向けアンケート

■先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか？



【市立末吉小学校／美術（造形）】



【市立仏向小学校／伝統芸能（日本舞踊）】



【市立俣野小学校／音楽（ガムラン）】

(2) クラシック・ヨコハマ推進事業

拡充

1,000万円（前年度：900万円）

p. 29

国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」の開催や、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家への演奏機会の提供及び市民の皆様
に身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、ミュージアムやサロン、福祉施設等市内の様々な会場でクラシックコンサートを実施します。また、当年度のコンクール出場者の中から、最も感動し、印象に残る演奏をした出場者に贈る聴衆賞「横浜市民賞」を選定するため、市民を公募します。29年度は、より多くの市民の皆様
に事業を周知し、理解を得るために、プロモーションを強化します。



【全日本学生音楽コンクール70回・クラシック・ヨコハマ・10回記念公演～横浜音祭り2016（毎日新聞社提供）】

(3) ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン推進事業

拡充

1,000万円（前年度：600万円）

p. 30

次世代を担う演奏家の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、創設者のアラン・ギルバート氏、大友直人氏ら、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、合宿セミナー（ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン（MMC J））を実施します。セミナーは横浜みなとみらいホールで約3週間行い、成果を発表するコンサートも開催します。29年度は、参加する講師を拡充するなど、指導内容の更なるレベルアップを図ります。



【MMC J オーケストラコンサート 撮影：三浦興一】

(4) 映像文化都市次世代育成事業（映像文化都市づくり推進事業の一部）

1,935万円（前年度：2,005万円）

p. 29

本市が誘致した東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用して、主に幼児から小学生までを対象とした映像ワークショップを実施するほか、東京藝術大学教授が講師を務める、小中高生を対象とした映像鑑賞教育（こどものためのシアター）を実施します。また、民間企業と連携して「ハンドメイド・アニメーション・グランプリ横浜賞」を設け、次世代の若手映像クリエイターを支援します。



【クリスマス・アニメーション・ワークショップ（青葉区内）】

(5) アーツコミッション次世代育成事業 (アーツコミッション事業の一部)

拡充

960 万円 (前年度 : 700 万円) p. 28

次世代を担う若手アーティスト・クリエイターに対する、キャリアアップ活動を行うためのフェローシップ型の支援や、スタジオ、アトリエ、事務所等の開設支援を行います。

29 年度は、次世代育成のための支援 (クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ) を拡充することで、若手アーティストの育成を一層推進します。

(6) MICE 次世代育成事業 (MICE 誘致・開催支援事業の一部)

拡充

400 万円 (前年度 : 300 万円) p. 33

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒を対象とした講演やワークショップなどの講座を開催します。国際的に活躍する研究者との交流や、学校では体験できない特別な実習などを通し、次世代を担う若者が最先端の技術や情報に接する機会を創出します。29 年度は、分野など参加機会を拡充します。



【次世代育成事業開催の様子：
第3回日本 MRS 大実験室】

◆トピックス② クリエイティブ・チルドレンの主な取組 ◆

次の事業においても、クリエイティブ・チルドレンの視点を取り入れて、実施します。

○横浜トリエンナーレ事業

未来を担う子どもたちが多様な価値観に対する理解を深めることができるよう、時代の先端を行く世界の芸術作品を身近に感じることができる取組を進めています。

具体的には、授業等の一環で展覧会を鑑賞する「学校鑑賞プログラム」をはじめ、子どもたちが展覧会に親しみ、様々な表現に触れる機会を設けます。



【2014 年展の教育プログラムの様子
撮影：加藤 健】

○スマートイルミネーション事業

若手アーティストや学生らに作品発表の機会と場を提供するとともに、LEDや有機ELなど、環境共生型の照明技術の新たな活用策などを発見、創造する機会として、「FutureCity Yokohama スマートイルミネーション・アワード」を開催しています。

29 年度も引き続き、次世代を担うアーティストの発掘、育成に取り組めます。



【FutureCity Yokohama スマートイルミネーション・アワード 2016 優秀賞受賞作品
「umi no mori」 撮影：森 日出夫】

市民の皆様やNPO等が主体となつて行う文化芸術活動を支援し、様々な文化芸術活動を鑑賞、創作、体験、発表できる機会の充実を図り、市内全域で市民の皆様が活動しやすい環境づくりを進めます。

また、文化芸術活動の拠点施設を整備・運営し、文化芸術を身近に親しむ機会の提供や様々な情報・魅力を発信します。

(1) 地域文化サポート事業

3,000万円（前年度：3,000万円） p.29

地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける取組や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくり等様々な分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌（季刊「ヨコハマアートサイト」）の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。



【NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあと『ここに響く打楽器作っちゃおう』（旭区内)】

(2) 芸術文化支援事業

3,040万円（前年度：3,090万円） p.30

市民の皆様が様々な文化芸術を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う、横浜の文化振興の基盤を担う活動を支援します。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団のコンサートや、市庁舎や市内各地で演奏会を開いている横浜市民広間演奏会、市内最大の美術公募展などを支援します。

(3) 関内ホール改修事業

拡充

2億5,811万円（前年度：6,542万円） p.30

関内ホールは、横浜の都心部である関内に位置する1,000席規模のホールとして、演劇、音楽、集会、講演会など多目的に利用されていますが、開館後30年が経過し、老朽化が進んでいます。そのため、29年11月から改修工事に着手し、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図るとともに、利用者の安全を確保するためにホールの天井の耐震化もあわせて実施します。

工事の実施に伴い、29年11月から30年9月まで施設を休館します。



【関内ホール】

(4) 文化施設整備事業

1 億 6,899 万円 (前年度: 1 億 7,699 万円) p. 30

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、地域特性等に応じて文化施設を整備します。

ア 区民文化センター整備

- ・ 瀬谷区: 不動産鑑定 200万円 (瀬谷駅南口第1地区第一種市街地再開発事業の中での整備)
- ・ 港北区: 内装基本設計 1,000万円 (新綱島駅前地区第一種市街地再開発事業の中での整備)
- ・ 戸塚区: 維持管理運営費 1億2,699万円 (戸塚駅西口に25年8月開館済み。24年度から27年度まで施設整備費支払、28年度以降は維持管理運営費のみ支払)

イ センター北 (都筑区) 文化施設用地活用

基本構想検討等公募準備 3,000万円

(5) 文化施設運営事業

拡充

30 億 5,573 万円 (前年度: 28 億 1,726 万円) p. 30

横浜美術館や横浜みなとみらいホール等の専門文化施設の運営を通じて、国内外から注目されるような質の高い展覧会やコンサート等を実施し、横浜の魅力を発信するとともに、大倉山記念館や長浜ホール等を含め、計 15 の文化施設を運営することで、市民の皆様が文化芸術に親しむ機会を提供します。

また、施設を安全に利用できるよう、磯子区民文化センター等のホールの天井の耐震化や、各施設の設備機器の修繕等を行うとともに、横浜美術館の大規模改修に向けて基本計画を策定します。

◆トピックス③ 市民活動への支援 -28年度の取組 (横浜音祭り2016) から-

「横浜音祭り2016」は、世界水準のトップアーティストによる公演、子どもたちの豊かな創造性を育むための次世代育成事業、市民が主役の市民参加事業を3つの柱として開催しました。

そのうち、市民参加事業として、関内ホールの大ホールで行った「ヨコオト・ライブ2016」や、公園やショッピングモールなど、横浜の街を舞台に行った「街に広がる音プロジェクト」では、合計で326組の応募の中から選ばれた合計81組の公募の市民アーティストが出演し、多彩な音楽を披露しました。

<横浜音祭り2016開催概要>

開催期間 28年9月22日~11月27日

プログラム数 456プログラム

(うち、主共催事業 174プログラム)



【街に広がる音プロジェクト (山下公園)
© oono ryusuke】

横浜らしい特色ある文化芸術の発信と国際交流の展開により、アジアを中心とした世界からアーティストが集まる文化芸術のハブ都市を目指します。

また、歴史的建造物など横浜ならではの地域資源を創造活動の場として活用するとともに、アーティスト・クリエイターなど創造的な人材の一層の集積と企業・地域との協働を推進し、創造性を生かしたまちづくり、産業振興などにより、創造都市横浜の発信力を強化します。

(1) 横浜トリエンナーレ事業

拡充

4億5,250万円（前年度：8,150万円）

p. 31

我が国を代表する現代アートの国際展、ヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス (Islands, Constellations and Galapagos)」を開催します。

先行きの見えない複雑な時代に、人間の勇気と想像力や創造力がどのような可能性を拓くことができるのか、皆様とともに考え、新たな視点を開港の地・横浜から発信します。

会 期：29年8月4日～11月5日

会 場：横浜美術館・横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館地下ほか

構想会議メンバー：スハーニャ・ラフェル、スプツニ子！、高階秀爾、リクリット・ティラヴァーニャ、鷺田清一、養老孟司、逢坂恵理子(*）、三木あき子(*）、柏木智雄(*） (*）ディレクターズ

文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与することを使命とし、「アートでひらく」、「世界につながる」、「まちにひろがる」の3つの目標に向け、次の取組を進めます。

・現代アートを分かりやすく伝える取組

作品鑑賞のきっかけとなる音声ガイドやガイドブックなどのツールを通じて、現代アートがより分かりやすく伝わるよう工夫します。

・市民サポーターとの協働

横浜トリエンナーレサポーターの方々と一緒に、3年に1度の祭典を盛り上げます。様々な世代の方々が一層参加しやすくなる仕組みなど、活動が活発に行われる環境を整えます。

・創造界隈拠点等との連携

各創造界隈拠点等と連携するほか、会場間のバス運行等回遊性向上も図り、トリエンナーレとの一体的な開催による賑わいを創出します。



(2) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業

新規

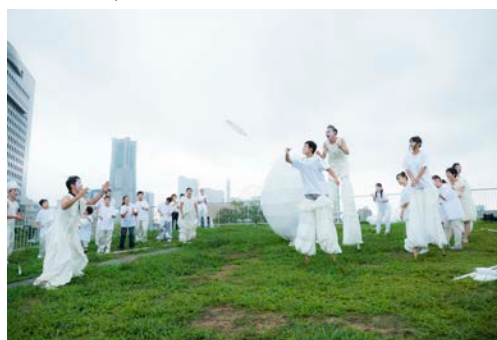
6,000万円（前年度：-）

p. 28

障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルの協働から生まれる現代アートの国際展「ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017」を「ヨコハマトリエンナーレ 2017」と連携して、開催します。

本事業は、アートの中で人々の出会いと協働の機会を創出し、誰もが居場所と役割を実感できる地域社会の実現を目的として、「ヨコハマトリエンナーレ 2014」の会期にあわせ、26年度に初めて開催しました。

29年度は、フェスティバルの開催に向けた準備期間から、衣装づくりや舞台美術づくりなどの制作を通して、障害のある方を含む多様な市民とアーティストやクリエイターがともに参画し、お互いが学び合う場を創出します。さらに前回展を踏まえ、健康福祉局とも連携しながら※1、障害のある方をはじめとする参加者のアクセス向上に取り組むとともに、横浜ならではの祝祭感のあるイベントを目指します。



【ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014
撮影：427FOTO】

※1…健康福祉局で横浜市社会福祉基金から1,000万円を別途計上

(3) 日中韓都市間交流事業

拡充

1,326万円（前年度：1,203万円）

p. 31

「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づき、アーティストや芸術団体等の相互派遣を通じて、中国泉州市及び韓国光州広域市との文化交流を引続き行っています。

29年度は、日中韓3か国の歴代東アジア文化都市12都市の首長による「東アジア文化都市サミット」が京都で開催される予定です。これを機に都市間の連携を一層深めるとともに、アジアの文化ハブとしての横浜の魅力を国内外に発信します。



【「横浜音楽祭2016」に出演する中国泉州市南音楽団】



【高校生の中韓伝統楽器体験（市立桜丘高等学校）】

(4) スマートイルミネーション事業

拡充

4,460万円(前年度:1,800万円) p.28

横浜都心臨海部を舞台に、LED照明や太陽光発電などの省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の演出を試みるイベント「スマートイルミネーション横浜」を実施し、都市としての魅力の向上を図ります。

29年度は、都心臨海部で展開する作品の充実を図るとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、国内外のアーティストやディレクターを招いた国際シンポジウムを開催し、海外のイベントとの連携を推進します。また、郊外区での展開も引き続き支援します。



【スマートイルミネーション横浜 2016 撮影：森 日出夫】

【スマートイルミネーション横浜 2016 撮影：アマノスタジオ】

(5) 創造的ビジネス・コーディネート事業

3,000万円(前年度:3,000万円) p.28

市内中小企業の技術力とクリエイターのアイデアを掛けあわせた商品開発・販路開拓をコーディネートすることで、企業とクリエイターによる新たなビジネス機会を創出し、創造的産業の振興を進めます。

29年度は、専門家による商品開発支援や展示会出展・テスト販売等による販路開拓機会提供を行います。



【ワールド・デザイン・キャピタル台北 2016 出展風景】

(6) アーツコミッション事業

拡充

6,206万円(前年度:6,070万円) p.28

アーティスト・クリエイターの集積促進と活動支援の取組として、ワンストップ相談窓口を設置するとともに、若手アーティストの育成や、共生社会の実現を目指した創造活動、スタジオ・事務所等の開設に対する支援を実施し、Webサイト等で取組を発信します。

29年度は、若手アーティストの育成支援のための助成枠を拡充します。また、アーティスト・クリエイターをはじめ、文化芸術施設や創造界隈拠点、企業・NPO、大学等様々な関係者が参加するプラットフォームを構築することで、魅力ある創造的活動が相乗的に生み出される仕組みづくりに取り組みます。

(7) 創造界限形成事業

拡充

3億4,395万円(前年度:3億1,975万円) p.28

歴史的建造物や倉庫等、都心部の地域資源を有効活用した創造界限拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）や、BankART Studio NYK（日本郵船横浜海岸通倉庫）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラスの運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの活動を支援し地域の活性化を図ります。

違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区においては、引き続き、地域・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

29年度は、賑わいの創出及び経済活性化につなげる新たな創造界限拠点として、「THE BAYS（ザ・ベース）」（旧関東財務局）が本格始動するとともに、ヨコハマトリエンナーレ2017の開催に合わせて、各拠点において連携事業を行います。



【初黄・日ノ出町地区「かいだん広場」】

◆トピックス④ 創造界限の新たな展開◆

市の指定有形文化財である旧関東財務局を、新たな創造界限拠点として活用するため、耐震補強等工事を実施しました。株式会社横浜DeNAベイスターズが活用事業者となり、「スポーツ×クリエイティブ」をテーマに、創造的産業を集積し、賑わいの創出及び経済の活性化につなげる中核施設「THE BAYS（ザ・ベース）」として平成29年3月にオープンしました。

施設内には、企業やクリエイター、大学などが連携しながらスポーツやヘルスケア分野のイノベーション、それに関連するクリエイティブ産業の創出を実現していく「クリエイティブスポーツラボ」や、市民がクリエイティブな視点で日常的にスポーツを楽しみ、健康づくりができる「クリエイティブスポーツライフスタイル拠点」が設置されています。

また、1階はカフェ・ショップとなり、まちの賑わいを創出します。



【THE BAYS（旧関東財務局）外観】

◆トピックス⑤ クリエイティブ・インクルージョン ◆

横浜市では、「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン」を策定し、“基本姿勢”の一つに『世界中から様々な人々が訪れる両大会、とりわけパラリンピックを契機に誰もが互いに尊重し、支えあう共生社会の実現を目指す』こととしています。文化観光局では、上記理念のもと「クリエイティブ・インクルージョン」を掲げ事業を実施しています。

これは、これまでの本市の文化芸術の創造性を生かしたまちづくりをふまえ、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを超えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方です。

これまでのクリエイティブ・インクルージョンのプログラム（事業）を紹介します。

◆横浜音祭りパラ・ミュージック「ミュージック・イン・ザ・ダーク～障がいとアート in 横浜」(28年度:「横浜音祭り2016」で実施)

視覚障害のある方とない方の合同メンバーによる弦楽オーケストラを結成し、一部照明を完全に消したホールでコンサートを行いました。市立盲特別支援学校の学校招待も実施しました。来場者からは、「演奏が合っているのにびっくりした。暗い時の方が演奏に広がりと一体感があった」等の感想をいただきました。



【ヴァイオリン奏者：川島 成道
©oono ryusuke】

開催日：28年11月3日 会場：フィリアホール（青葉区民文化センター）

出演：川島 成道（ヴァイオリン）、徳永 二男（ヴァイオリン）他

◆ヨコハマ・パラトリエンナーレ（26年度）

ヨコハマ・パラトリエンナーレは、障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルとの協働で、新たな芸術表現を生み出すことを目指し、26年に初めて開催しました。障害のある方の芸術活動への理解を深めるとともに、アートを社会課題の解決に活用する契機となりました。



【ヨコハマ・パラトリエンナーレ2014
Photo:427FOTO】

また、健康福祉局と連携しながら、人材の育成やネットワークづくりなどに取り組んでおり、障害のある方々がアート活動に参加する際に必要となるサポートを行うために、一人ひとりに適した環境を整えるためのコーディネーターの養成を行っています。創作活動における困難を一緒に乗り越え、創造性を互いに引き出すアカンパニストの養成など、障害の有無に関わらず誰もが共生できる社会の実現を目指して取り組んでいます。

（参考）ヨコハマ・パラトリエンナーレ2014

開催期間：26年8月1日～11月3日 コア期間：8月1日～9月7日

会場：象の鼻テラス 総合ディレクター：栗栖 良依

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議等をターゲットとした積極的な誘致を進めるとともに、MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要を踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピックに間に合うよう、MICE施設の整備を進めます。

また、国内外からの交流人口の増加による市内経済活性化を目指し、海外からの誘客を促進するため、民間事業者と連携し、多言語化など外国人旅行者に対する受入環境を強化するとともに、海外市場のニーズに合わせたプロモーションを展開します。

さらに、国内の横浜への交通アクセスが向上するエリアからの誘客を強化します。

(1) 20街区MICE施設整備事業

1,300万円（前年度：2,000万円）

p.33

MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要を踏まえ、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）で、PFI事業により新たなMICE施設とホテル等を一体的に整備します。32年4月の施設開業に向けて、29年8月に建築本体工事に着手するとともに、誘致活動を本格的に開始します。

<施設概要>（予定）

階数	地下1階、地上6階
最高の高さ	36.2m
延床面積	約48,400㎡
多目的ホール	約7,600㎡（ホワイエを含め約10,000㎡）
会議室	約6,500㎡（大会議室8室、中会議室8室、小会議室18室）

<20街区MICE施設のイメージ図>



(2) アジア開発銀行年次総会横浜開催推進事業

2億3,500万円(前年度:3億6,500万円) p.33

29年5月に第50回アジア開発銀行(ADB)年次総会が横浜で開催されました。庁外組織である横浜開催推進協議会等を通じて、財務省や神奈川県、地元の経済界・関係団体、市民ボランティア等と連携し、世界各国からお越しになる参加者を市を挙げておもてなしするとともに、安全・円滑な開催支援を行いました。

また、年次総会を機に、ADBとの連携を一層強化し、横浜市が進めてきた持続可能な都市づくり、国際協力、女性の活躍支援等の取組を世界に発信しました。

◆第50回アジア開発銀行年次総会 概要

本市取組のコンセプト：ともにひらく、アジアの未来

- ・開催日程 29年5月4日(木)～7日(日)
- ・会場 パシフィコ横浜及び周辺ホテル
- ・参加者 各国財務大臣、中央銀行総裁、民間金融機関関係者、NGO、報道機関関係者など(登録者数約6,000人/参加者数約5,000人)



(3) MICE誘致・開催支援事業

1億9,373万円(前年度:2億1,319万円) p.33

MICEの誘致・開催支援など各種施策を推進することで、MICE開催機能を強化し、横浜の特色を生かした国際的なMICE拠点都市を目指します。

【主な事業内容】

○誘致・開催支援

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議を中心に誘致及び開催支援を行います。

(29年度開催予定の大型国際会議)

- ・6月7日～10日 第6回アジア太平洋肝胆膵学会
- ・10月15日～18日 第18回世界肺癌学会



【パシフィコ横浜での国際会議の様子】

○次世代育成

MICE開催を機に、子どもたちが世界で活躍する研究者と交流したり、最先端の技術や情報に触れる機会を創出します。29年度は、分野など参加機会の拡充を図ります。

○MICE・観光集客等イベント支援

横浜の歴史や景観を生かした大規模集客イベントに対し、広報協力など開催に向けた支援を実施すると共に、MICEの誘致及び観光・集客支援を推進します。

(4) 国内誘客事業

4,108 万円 (前年度 : 4,860 万円)

p. 32

鉄道の延伸等、交通事情を踏まえ、時宜を捉えた戦略的なプロモーションを展開します。重点セールスエリアを中心に観光関連事業者と連携した旅行代理店へのセールス等により、国内からの誘客を促進します。

また、横浜が有する様々な資源や強みを新たな観光資源として掘り起こし、横浜ならではのニューツーリズム(着地型観光)を推進するとともに、誰もが安心して旅行を楽しむまち横浜を目指し、ユニバーサルツーリズムに着手します。

※ユニバーサルツーリズムとは、すべての人が楽しめるよう創られた旅行であり、障がい等の有無や年齢にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行を目指しています。



【横浜商談会 in 北海道】

(5) 海外誘客事業

7,351 万円 (前年度 : 5,956 万円)

拡充

p. 32

アジア8地域(中国、韓国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア)を主な対象市場として、市場ごとのニーズを把握した上で、ターゲット層を定め、適切な手法でのプロモーションを実施します。

近年増加している個人旅行者に対しては、映像やSNSを媒体とする情報発信や訪日旅行フェアへの出展、団体旅行客向けには、他都市との連携による周遊ルート の提案や、現地旅行会社の協力による旅行商品の販売促進などを行います。

また、羽田空港や東京都心から近いという特性を生かし、東京を訪れる外国人旅行者を横浜へ誘引するために、体験提案型の英語版観光マップの配布などを行います。

さらに、横浜港へ寄港するクルーズ船乗船客の横浜観光促進のため、港湾局と連携し、船会社への観光情報の提供、寄港地観光ツアー造成に向けた旅行会社へのセールス等を実施します。



【マレーシアで開催されたジャパン・トラベル・フェア】



【インドネシアで開催されたジャパン・トラベル・フェア】

(6) 多文化に対応した受入・誘客事業 及び多言語対応強化事業

拡充

1,550万円（前年度：1,400万円）

p. 32

多様な文化圏から来訪する外国人旅行者が食事などの生活習慣の違いから不便を感じることはないよう、対応可能な施設の情報をWebサイトで提供したり、市内の観光関連事業者向けに接客研修を開催するなど、文化の違いに配慮した受入環境の整備に取り組みます。

あわせて、ムスリムの割合が高いマレーシア、インドネシアを対象として、現地で開催される旅行博に参加し、現地事業者と連携したプロモーションを実施するなど、横浜への誘客を推進します。

また、市外における情報発信拠点の拡大や、公式Webサイト「横浜観光情報」の対応言語の増加など、外国人旅行者向けの横浜観光情報の発信を強化します。



【ムスリム接客セミナー】



【桜木町駅観光案内所】

(7) 三溪園施設整備等支援事業

2億5,443万円（前年度：2億5,783万円）

p. 33

国指定名勝である三溪園の美しい景観を維持し、魅力を向上させるための庭園整備を行います。

また、文化的・歴史的価値の高い古建築（重要文化財10棟、横浜市指定文化財2棟を含む）の保全整備を行います。

さらに、訪日外国人の増加が見込まれるラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、本市を代表する迎賓・観光施設としての施設機能を強化し、多様なお客様が快適に滞在できるよう、受入環境の整備を進めます。



【紅葉の三溪園（聴秋閣）】

◆ トピックス⑥ 広域連携による海外誘客の推進 ◆

国と地方が広域に連携して取り組む訪日プロモーション事業「ビジット・ジャパン（VJ）地方連携事業」において、横浜市は近隣自治体と共に、新たな周遊ルートとして「日本シルクロード」の造成・PRを行っています。

これは、絹貿易で栄えた横浜を起点とし、江戸時代の街並みを残す川越、富岡製糸場と絹産業遺産群、自然豊かな老神温泉や飯能、あしかがフラワーパークなど、かつての絹の道の歴史を辿りつつ、新たな観光スポットも巡るものです。



【横浜市内で袴の着付け体験】

●28年度に実施した主な取り組み

- (1) 上海世界旅行博覧会出展
- (2) 旅行会社・メディア招請、モデルツアーの実施

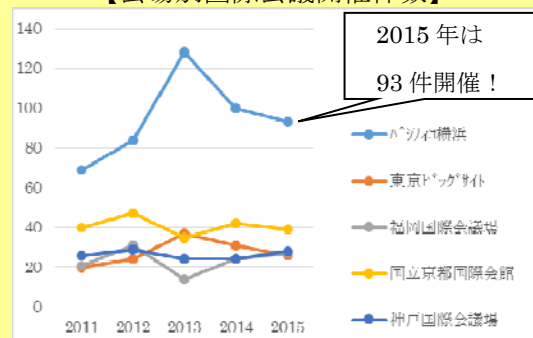
横浜市内では、袴の着付け体験、三溪園での抹茶体験のほか、観光施設等を訪問

- (3) 日本シルクロードを紹介する簡体字・繁体字パンフレットの制作・配布

◆ トピックス⑦ 国際的なMICE拠点都市・横浜 ◆

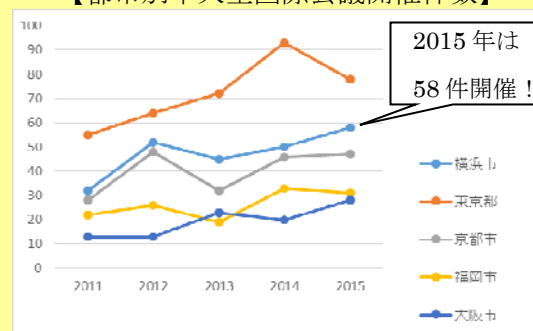
日本有数のMICE施設であるパシフィコ横浜では、コンベンションをはじめ数多くのMICEが開催され、大きな賑わいを創出しています。

【会場別国際会議開催件数】



2015年は
93件開催！

【都市別中大型国際会議開催件数】



2015年は
58件開催！

●国際会議参加者数 14期連続国内1位

パシフィコ横浜は、JNTO（日本政府観光局）国際会議統計のコンベンション施設別国際会議総参加者数は約25万人で14期連続全国1位、開催件数については93件で13期連続全国1位となりました

●中大型国際会議開催件数全国2位

都市別の中大型国際会議開催件数は58件で全国2位となりました。

今後も経済波及効果の高い中大型国際会議の誘致を積極的に推進していきます。

出典：JNTO（日本政府観光局）国際会議統計

◆トピックス⑧ ラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした取組の強化◆

文化観光局では、世界的なスポーツイベントである両大会を絶好の機会として、横浜らしい文化芸術による発信や国内外からの集客の強化、新たなMICE拠点の整備などにより、賑わいの創出や経済の活性化など都市の活力を創出し、「選ばれる都市 横浜」の実現を目指しています。両大会を見据えた29年度の主な事業をご紹介します。

◆英国・オーストラリア等を対象とした横浜プロモーション

ラグビーファンや競技人口が多く、横浜への関心や来訪の機運の高まりが期待できるエリアである、英国・オーストラリア等をターゲットとして、横浜の認知度や訴求できる魅力などを調査するとともに、Webメディアを中心とするシティプロモーションを実施し、横浜の魅力を視覚的に訴求していきます。



【CNNのWebプリロールビデオ(28年度)】

◆クルーズ船客の誘客促進

アジアでのクルーズ市場拡大に合わせ、港湾局と連携しクルーズ船乗船客の横浜観光促進を図ります。

また、世界有数のクルーズ市場である米国向けに、日本政府観光局やクルーズ船社とも連携し、現地セミナーでの情報発信や、乗船前の横浜宿泊を促進するためのセールスを実施します。



【大さん橋のクルーズ船客】

◆パーソナルモビリティツアー実証実験事業

横浜の新たな魅力・観光資源として、都心臨海部においてパーソナルモビリティツアーの公道実証実験を行います。29年度は、国際会議等の参加者向けテストツアーや一般向けモデルツアーの実施を予定しています。



【八景島での実証実験の様子(25年度)】

◆ヨコハマ・パトリエナーレ2017【再掲】

P.14 参照

<参考：国の文化プログラムについて>

オリンピック開催国の責務として「文化プログラム」を開催することとされており、大会組織委員会及び国の関係府省庁が連携して次の取組を行っています。横浜市もこれらの取組に積極的に参画し、東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に貢献していきます。

◇東京2020 参画プログラム「文化オリンピアド」(オリパラ組織委員会：H28.10月～)

「オリンピック憲章」に基づき、スポーツ・文化等8分野からなる公式プログラムの1つで、横浜市は会場関連自治体として「公認プログラム」の対象団体となっています。

◇beyond2020 プログラム(内閣官房：H29.1月～)

2020年以降のレガシー創出に資する全国で実施される文化イベント等が対象です。

IV 平成29年度 文化観光局予算総括表

(単位：千円)

科 目	29年度 予算額	28年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款 文化観光費	7,319,770	7,517,429	△ 197,659	△ 2.6	
1項 文化観光費	7,319,770	7,517,429	△ 197,659	△ 2.6	
1目 文化観光総務費	1,365,221	1,301,973	63,248	4.9	<ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーション事業 7,205千円増 ・パーソナルモビリティツアー 実証実験事業 5,000千円増 ・職員人件費 48,806千円増
2目 文化芸術創造 都市推進費	4,221,037	4,077,313	143,724	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設運営事業 238,476千円増 ・関内ホール改修事業 192,690千円増 ・ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 60,000千円増 ・旧関東財務局保全・耐震対策事業 △ 358,479千円
3目 文化プログラム 推進費	532,223	448,134	84,089	18.8	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレ事業 371,000千円増 ・横浜芸術アクション事業 △ 287,000千円
4目 観光MICE 振興費	1,201,289	1,690,009	△ 488,720	△ 28.9	<ul style="list-style-type: none"> ・海外誘客事業 13,952千円増 ・減債基金積立金 △ 335,257千円 ・アジア開発銀行年次総会横浜開催 推進事業 △ 130,000千円

V 予算科目別内訳

1 項 1 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市 債	その他	一般財源
1 文化観光費 総務	千円 1,365,221	千円 1,301,973	千円 63,248	千円 —	千円 —	千円 64	千円 1,365,157

横浜魅力づくり室

(1) シティプロモーション事業 **87,824千円** (前年度 80,619千円)

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい ～Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的にプロモーションすべきイベント・施設を選定したうえで、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。29年度は、テレビやスマートフォンを通じ、映像で視覚的に魅力を伝えていく取組を引き続き行います。特に、海外については、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、アジアに加え新たに英国やオーストラリア等をターゲットエリアとし、WebメディアとSNSによるプロモーションを展開し、都市の魅力の認知やブランド力の向上につなげます。

(2) 調査分析事業 **14,208千円** (前年度 10,834千円)

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等を把握することにより、施策立案の基礎資料として活用します。あわせて、国内外での横浜の魅力に関する調査を実施し、賑わい形成、経済の活性化、プロモーションを戦略的・効果的に実施することにつなげます。

(3) フィルムコミッション事業 **12,860千円** (前年度 13,154千円)

横浜のシティセールス・プロモーション等に寄与する映像作品や観光客誘致に効果のある映像作品のロケ支援を行います。

(4) 開港記念式典開催事業 **4,680千円** (前年度 4,680千円)

開港記念日（6月2日）に市民や市政関係者とともに開港を祝い、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表するため、開港記念式典を開催します。

(5) パーソナルモビリティツアー実証実験事業 **5,000千円** (前年度—)

横浜の新たな魅力・観光資源として、都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの公道実証実験を行います。

総務部

(6) 総務費 **16,421千円** (前年度 17,264千円)

文化観光局職員の人材育成事業などを実施します。

(7) 人件費 **1,224,228千円** (前年度 1,175,422千円)

文化観光局職員の人件費を計上します。

1項2目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
2 文化芸術創造都市推進費	千円 4,221,037	千円 4,077,313	千円 143,724	千円 90,498	千円 324,000	千円 75,815	千円 3,730,724

文化芸術創造都市推進部

(1) 創造界限形成事業

343,949千円 (前年度 319,752千円)

歴史的建造物や倉庫等、都心部の地域資源を有効活用した創造界限拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）や、BankART Studio NYK（日本郵船横浜海岸通倉庫）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、THE BAYS（旧関東財務局）の運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの活動を支援し地域の活性化を図ります。

違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区においては、引き続き、地元・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

さらに、各創造界限拠点では、若手アーティストの展覧会・公演、小中学生向けのワークショップを実施し、次世代育成にも取り組みます。

(2) ヨコハマ・パトリエンナーレ事業

60,000千円 (前年度ー)

“障害者”と“多様な分野のプロフェッショナル”の協働から生まれる現代アートの国際展『ヨコハマ・パトリエンナーレ2017』を開催します。

2017年以後も、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、3年に1回ごとの発展的な開催を目指します。

(3) アーツコミッション事業

62,060千円 (前年度 60,700千円)

アーティスト・クリエイター・企業等に対するワンストップ相談窓口の設置、若手アーティストの育成、創造性をいかして社会課題に取り組む活動に対する支援及びスタジオ・事務所等開設に対する支援を行い、創造界限への一層の人材集積とまちの活性化を図ります。

Webサイト「創造都市横浜」やSNS等を活用し、創造都市の様々な取組や集積しているアーティスト・クリエイター情報を市内外へ効果的に発信することで、創造界限拠点の認知率向上を目指します。

(4) スマートイルミネーション事業

44,600千円 (前年度 18,000千円)

横浜都心臨海部を舞台に、LED照明や太陽光発電などの省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の演出を試みるイベント「スマートイルミネーション横浜」を実施し、都市としての魅力アップを図ります。29年度は、都心臨海部で展開する内容を拡充するとともに、引き続き郊外区でも展開します。

(5) 創造的ビジネス・コーディネート事業

30,000千円 (前年度 30,000千円)

市内中小企業の技術力とクリエイターのアイデアを掛けあわせた商品開発・販路開拓をコーディネートすることで、企業とクリエイターによる新たなビジネス機会を創出し、創造的産業の振興を進めます。

(6) 映像文化都市づくり推進事業 **28,950千円** (前年度 29,060千円)

本市が誘致した東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用しながら、地域貢献・次世代育成の取組を実施するほか、同大学院が校舎として使用する映像文化施設の維持管理を行います。また、民間企業と連携して「ハンドメイド・アニメーション・グランプリ横浜賞」を設け、次世代の若手映像クリエイターを支援します。

(7) 創造都市市民連携事業 **6,666千円** (前年度 6,666千円)

約400名の市民ボランティアスタッフが運営に参加する「横濱JAZZ PROMENADE」や日本大通りを中心に開催する同時コンサート「ホッチポッチミュージックフェスティバル」など、多くの市民の皆様が参加するイベントの開催を引き続き支援するとともに、まちの賑わいや来街者の回遊性を創出します。

(8) 創造都市国際交流事業 **1,000千円** (前年度 3,200千円)

創造都市の取組を推進する地方自治体間の連携・交流を図る「創造都市ネットワーク日本 (CCNJ)」と連携し、創造都市に関する情報・知見を共有する都市間ネットワークを形成するとともに、創造界隈拠点において培った国際ネットワークを活用した交流を図ります。

(9) 創造都市推進事業 **6,092千円** (前年度 8,125千円)

創造都市施策推進のための事務経費等

(10) 芸術文化教育プログラム推進事業 **34,940千円** (前年度 33,940千円)

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを展開します。29年度は、261回 (28予算261回) 実施します。

(11) 地域文化サポート事業 **30,000千円** (前年度 30,000千円)

地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくり等様々な分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌 (季刊「ヨコハマアートサイト」) の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。

(12) クラシック・ヨコハマ推進事業 **10,000千円** (前年度 9,000千円)

国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催や、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家への演奏機会の提供及び市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシックコンサートを実施します。また、コンクール出場者の中から、最も印象に残る演奏をした出場者に贈る「横浜市民賞」を選定するため、市民を公募します。

(13) ミュージック・マスターズ・コース・ **10,000千円** (前年度 6,000千円)
ジャパン推進事業

次世代の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となり、合宿セミナーを実施します。セミナーは横浜みなとみらいホールで約3週間行い、成果を発表するコンサートも開催します。

(14) 芸術文化支援事業 **30,400千円** (前年度 30,900千円)

市民の皆様が様々な文化芸術活動を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う、横浜の文化振興の基盤を担う活動を支援します。神奈川フィルハーモニー管弦楽団のコンサートや、市庁舎や市内各地で演奏会を開いている横浜市民広間演奏会、市内最大の美術公募展などの活動を支援します。

(15) 文化施設運営事業 **3,055,734千円** (前年度 2,817,258千円)

横浜美術館、横浜みなとみらいホール等の文化施設の運営及び舞台設備等の計画的な修繕・更新等を行います。

○ 横浜美術館運営費	759,971千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	486,521千円
○ 横浜能楽堂運営費	173,000千円
○ 横浜にぎわい座運営費	209,704千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	866,716千円
○ 文化施設修繕費等	559,822千円

(16) 関内ホール改修事業 **258,111千円** (前年度 65,421千円)

開館後30年が経過し、老朽化が進んでいるため、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図るとともに、利用者の安全を確保するためにホールの天井脱落対策を併せて行います。29年11月中旬に工事に着手し、30年9月下旬の完成を予定しています。

(17) 文化施設整備事業 **168,993千円** (前年度 176,993千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、身近な拠点となる区民文化センターを、各区の地域特性等に応じて整備します。29年度は、港北区で内装の実設計を引き続き行い、瀬谷区で不動産鑑定を行います。

○ 区民文化センター整備	
港北区 (内装基本設計費)	10,000千円
瀬谷区 (不動産鑑定費)	2,000千円
戸塚区 (維持管理運営費)	126,993千円
○ センター北 (都筑区) 文化施設用地活用 (基本構想検討等公募準備費)	30,000千円

(18) その他の文化振興事業 **29,980千円** (前年度 62,569千円)

横浜文化賞の贈呈、美術資料収集等のほか、文化施設が設置されている複合施設の修繕費を負担します。

(19) 芸術文化振興財団補助金 **9,562千円** (前年度 11,250千円)

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団の事業への補助を行います。

【終了事業】

(旧関東財務局保全・耐震対策事業) (前年度 358,479千円)

1項3目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
3 文化プログラム推進費	千円 532,223	千円 448,134	千円 84,089	千円 —	千円 —	千円 —	千円 532,223

文化プログラム推進部

(1) 横浜トリエンナーレ事業

452,500千円

(前年度 81,500千円)

我が国を代表する現代アートの国際展である横浜トリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」を29年8月4日から11月5日まで横浜美術館・横浜赤レンガ倉庫1号館を主会場として開催します。

「アートでひらく」、「世界とつながる」、「まちにひろがる」の3つを目標とし、誰もが多様な表現に触れる機会を提供すること、ナショナルプロジェクトとして横浜から世界に向けた新しい価値観と文化を定期的に発信すること、創造都市横浜ならではの「まちの力」と一体になった取組を進めます。

(2) 横浜芸術アクション事業

60,000千円

(前年度 347,000千円)

都市のプレゼンスを高めていくことを目的に、文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムを国内外に発信するため、横浜らしい特色のある芸術フェスティバルの次期開催に向けた準備を進めます。

29年度は、継続事業として次世代育成事業や市民参加事業を実施するとともに、2018年のダンスフェスティバルの準備を進めます。

(3) 日中韓都市間交流事業

13,263千円

(前年度 12,034千円)

26年11月に締結した「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づき、アーティストや芸術団体等の相互派遣を通じて、中国泉州市及び韓国光州広域市との交流を引き続き行っていきます。

また、日中韓3か国の歴代東アジア文化都市12都市の首長をメンバーとする「東アジア文化都市サミット」(29年度に京都市で開催予定)に参加します。

(4) 文化プログラム推進事業

6,460千円

(前年度 7,600千円)

ラグビーワールドカップ2019TM及び東京2020オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、横浜らしい特色のある芸術フェスティバルを中核的取組としながら、横浜ならではの文化プログラムを展開することにより、まちに賑わいを創出するとともに、文化芸術創造都市・横浜の魅力国内外に発信します。

1項4目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
4 観光MICE振興費	千円 1,201,289	千円 1,690,009	千円 △488,720	千円 —	千円 —	千円 5,416,415	千円 △4,215,126

観光MICE振興部

1 国内外からの誘客促進 123,591千円 (前年度 117,154千円)

国内では、修学旅行誘致や着地型観光の推進に取り組みます。また、海外では、アジア8地域（中国、韓国、香港、台湾、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア）を対象として、各市場に即した誘客事業を実施します。併せて、多様な文化圏から来訪する外国人旅行者が不便を感じることがないように、受入環境の向上を引き続き図ります。さらに、国内外からの誘客に向け、民間事業者等と連携し、海外市場のニーズに合わせた、効果的なプロモーションを展開するほか、クルーズ船会社、ランドオペレーター等に対するセールスを実施します。

(1) 国内誘客事業 41,083千円 (前年度 48,598千円)

- 修学旅行誘致等国内セールス
- 着地型観光の推進
- ユニバーサルツーリズムの推進

(2) 海外誘客事業 73,508千円 (前年度 59,556千円)

- クルーズ船会社、ランドオペレーター等に対するセールス
- 現地プロモーション
- 現地訪問セールス及びメディア・旅行会社招へい等

(3) 多文化に対応した受入・誘客事業 9,000千円 (前年度 9,000千円)

- 東南アジアでの横浜観光プロモーション
- ムスリム旅行者等の受入環境向上

2 観光客の受入環境整備の推進 425,848千円 (前年度 428,374千円)

観光案内所の運営や国内外からの観光客の受入環境の向上に取り組むほか、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、多言語対応を引き続き強化します。また、三溪園など観光施設整備の支援を行います。

(1) 横浜おもてなし事業 54,651千円 (前年度 58,659千円)

- 観光案内所の運営などによる来訪者支援
- 国内外からの観光客の受入環境向上及び研修の開催等による市内事業者支援

(2) 観光・MICE情報発信事業 43,790千円 (前年度 43,897千円)

- WebサイトやSNSを活用した観光・MICEの最新情報の発信

(3) 多言語対応強化事業 6,500千円 (前年度 5,000千円)

- 観光関連事業者向け外国人観光客受入対応研修の開催
- 横浜観光情報公式サイトの多言語対応強化

(4) 三溪園施設整備等支援事業 254,429千円 (前年度 257,829千円)
○ 名勝庭園の維持、重要文化財等の歴史的建造物整備・保全の支援

(5) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業 3,251千円 (前年度 3,825千円)
○ 認定商品の商談会等の開催や販路拡大の支援

(6) 観光施設維持管理事業等 63,227千円 (前年度 59,164千円)
○ 所管観光施設の管理運営の支援
○ 観光動向に関する調査

3 MICE誘致・開催支援 638,850千円 (前年度 1,124,481千円)

中大型国際会議を軸としたMICE全般の誘致・開催支援や、「横浜ならではの」の集客イベントへの開催支援に継続して取り組みます。また、29年5月に横浜で開催された、第50回アジア開発銀行年次総会の開催を支援しました。

(1) MICE誘致・開催支援事業 193,728千円 (前年度 213,187千円)
○ MICE誘致・開催支援
○ MICEを活用した次世代育成事業
○ MICE・観光集客等イベント支援 等

(2) 大型国際会議等誘致・支援事業 5,185千円 (前年度 6,100千円)
大型国際会議の誘致及び開催支援を行うことにより、国際的なMICE都市の実現を図ります。

(3) アジア開発銀行年次総会横浜開催推進事業 235,000千円 (前年度 365,000千円)
平成29年5月に横浜で開催された第50回アジア開発銀行年次総会において、財務省や地元経済界、市民ボランティア等と連携し、安全・円滑な開催支援を行いました。

(4) 減債基金積立金 204,937千円 (前年度 540,194千円)
㈱横浜国際平和会議場貸付金の元金償還額及び利子償還額を減債基金に積み立てます。

4 20街区MICE施設整備事業 13,000千円 (前年度 20,000千円)

MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）で、PFI事業により新たなMICE施設の建築本体工事に着手するとともに、誘致活動を本格的に開始します。

・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を変更。

（29年度変更後額：7,785,000千円（28年度設定額：6,180,000千円））

（変更後の期間：29年4月～40年3月まで）

1 団体の概要

＜事業目的＞

国際・国内会議及び学術等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

＜設 立＞

昭和62年6月3日

＜基 本 金＞

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：平成27年度決算

- ・営業収益 8,122,380千円
- ・営業費用 7,139,896千円
- ・営業利益 982,484千円
- ・当期純利益 460,925千円（14期連続黒字決算）

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

- ・担保余力 18,087,350千円

国際・国内会議及び学術等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催事業の収益により、11年間で返済する。

YOKOHAMA
TRIENNALE 2017
Islands, Constellations
& Galapagos

ヨコハマ
トリエンナーレ
— 2017 —
島と星座と
ガラパゴス

2017
8.4
[fri] — 11.5
[sun]

休場日
第2・第4
木曜日

横浜美術館
横浜赤レンガ倉庫1号館
横浜市開港記念会館地下
ほか

Yokohama Museum of Art
Yokohama Red Brick Warehouse No.1
Yokohama Port
Opening Memorial Hall



この夏、世界の現代アートが横浜に

🌐 www.yokohamatriennale.jp | 🐦 @yokotori_